

わりなくぞあやめのふちを心ざすちまき馬をや引いだすとて

拾遺和歌集雜賀

五月五日

ちひさきかざりちまきを山すげのこに入てためまさの朝臣のむす

めに心ざすとて

春宮大夫道綱母

浦賀

心ざしふかみぎはにかるこもはちとせのさ月いつかわすれん

〔建内記〕嘉吉三年五月五日己未蒲節幸甚○中丹州角黍自五辻到來貢物萬歲祝著名々小原兩程

送遣之是又例也

文安四年五月五日丙申蒲節幸甚々々○中東南院僧都狀到來略

節供之義珍重候兼而雖比興候粽百進候可有御祝著候每事期後信候恐惶謹言

五月五日

萬里小路殿

〔臥雲日伴錄〕寶德二年五月五日壽濃淨人獻小粽子五首○首恐誤非此物今日空過佳節耳所謂粽子此

方俗謂之茅卷蓋以茅裹之也凡店所賣者以竹葉代茅非貴人之食今淨人所獻是也

〔親元日記〕寛正六年五月五日辛亥御祝物粽已下三御方

御所出川殿上様

分令調進候畢

文明十三年五月四日戊寅御料所播州松井庄右方公事粽千五百進納自貴殿被副人杉江御方御

所之御末へ被納之○中桐野河内より粽まいり、五月己卯定光院丸菊粽百進上之

〔改正月令博物筌〕五月柏餅ばらもちの葉につゝめり柏も神道に用ゆるめてたきものなれば毒虫多く人の家にも入り来るにより粽は蛇の形に表す是を食すれば彼を降伏する心にで夏の中わざわひなき事を表して祝すなるべし

〔俳諧歲時記〕菖蒲人形菖蒲人形江戸の俗端午に餅を製し裏に餡を裏み檜の葉を以これを覆ふ名づけてかしは餅といふ其角が附句に餅作るなら廣葉を打合などせしは是也

〔東都歲事記〕五月五日端午御祝儀○中貴賤佳節を祝す柏餅ばらもちを製す